
くとさんパークあり方検討部会の検討結果について

2022年4月27日

1 くとさんパークあり方検討部会について

（１）北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会くとさんパークあり方検討部会の設置

北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会において、令和4年度から駅西口エリアの本格的な検討を進めるにあたり、西口駅前広場の整備予定エリアに設置されている転車台等のあり方について、令和3年度内を目途に一定の方向性を決めるため設置。

- 構成員 … 座 長 矢吹 俊男
町 内 有 識 者 千坂 昭一、鈴木 秀夫
整備推進委員会委員 柏谷 匡胤、宮武 利裕（敬称略）
事務局 … まちづくり新幹線課、建設課、社会教育課

- 検討事項
 - ・転車台等のあり方について
 - ①転車台保存 → 公民館のSLと一体で保存の調整が必要か
 - ②転車台移転 → くとさんパーク内や六郷鉄道公園に移設の可能性はあるか
 - ③転車台撤去 → 撤去しても、鉄道遺産としての軌跡を残す検討が必要か

（２）開催状況

- 令和3年度内で、全4回開催した。

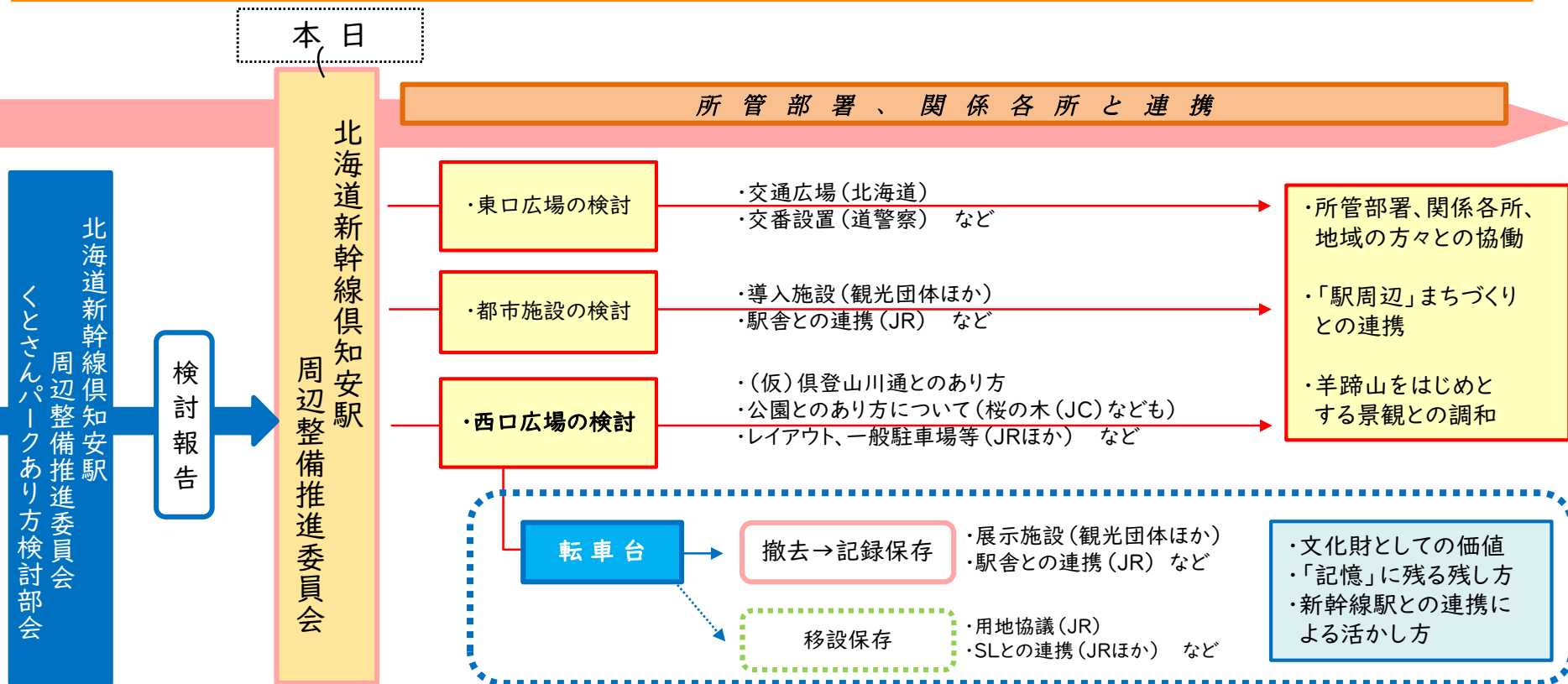
開 催 予 定	検 討 内 容
1月26日	・ 部会の目的及び倶知安駅周辺整備に向けた検討状況について ・ 旧国鉄 倶知安機関区転車台について
2月16日	・ 転車台の保存、移転、撤去における課題について
3月 4日	・ 転車台の保存、移転、撤去について
3月25日	・ 旧国鉄鉄道遺産の承継方法について ・ 方向性の整理

2 転車台のあり方について

(1) 今後の駅西口駅前広場の検討について

- ・全4回行われた部会において、転車台については下記の方向性が示された。
 - ・「何らかの形で『残す』」→撤去して終わり、とにならないように整理する。
 - ・「多数の意見としては、『現物保存に拘らず記録を残していく』」→転車台を核として、鉄道の歴史をどう残していくか。
「精査して記録を残す」ことに加えて、現段階では移設保存の可能性も併記して良いのではないか。
- ・「記録を残す際には、しっかりと調査をして残すこと」→知識のある人は高齢化してきており、早めに話を聴くことが必要である。
しっかりと調査するのはもちろんのこと、町の人々が記憶を残していくことも大事。具体的に
取り組める活動を積み上げ、後世に残していく方法が大事である。

(2) 今後の検討について



3 第3回くとしさんパークあり方検討部会

(1) 開催日時・場所

開催日時：2022年3月4日（金）17:00～18:05

開催場所：倶知安町役場 2階会議室

(2) 開催内容

- ・議 事
転車台の保存、移転、撤去について… 資料
- 【概要】
 - ・町としては、西口くとしさんパークエリアを新幹線駅駐車場として整備したい意向である。現段階の想いについて確認したい。
 - ・移転・移設することで教育などに生かす方法を、費用も抑えるところを含めて検証していければ良いと思う。そうすることで、仮に撤去となっても残し方・活かし方として整理できるのではないか。現在位置にこだわらず、撤去も含めた移転・移設というイメージ。
 - ・残していくのは難しい面もあると思うが、転車台の価値をどう見出していくか…記録とか記憶とか、この場所にあった意味とかを残していくという方向で考えないといけない。
 - ・費用を度外視するならば、移設がベストと思う。新幹線駅舎から離すのは意味がない。JRの土地があり、協力いただけるような方法はないものか。
 - ・「どうやって活かしていくか」の問題。気持ちとして残したいという思いはあれど、現実的にはどうなんだろうというところ。
 - ・「歴史」を残すのにどういう手法が良く、子どもたちにどう伝えていけるかを教育委員会と連携していくことが大切である。どうしても現物が無いとできない、というものではないのではないか。活用できないと意味がない。歴史的な風景をどのような手法で残していくか。
 - ・現況のままで活用していこうとすれば、相当な負担が発生する。
 - ・風土館などでジオラマなど設置するなどして、子どもたちに意識づけができるのではないか。
 - ・本日、「倶知安町文化財保護調査委員会」が開催され、転車台が議案の一つとなった。
 - ①転車台は文化福祉センター前のSLと一体化する
 - ②転車台を利用して普及活動を行い、価値の更なる創出に繋げる
 - ①と②を合わせて初めて価値が出る。多額の費用が必要となるのであれば難しい、という話もあった。
 - ・仮に現物が無くなって「記録」だけになっても、「記憶」に残る取組みが大事。
 - ・「価値」「農業と鉄道の密接な関係を伝える仕掛け作り」をイメージして、残し方を考えないといけない。
 - ・移設するよりは現在位置に残す方が安価にできる面もあるが、周辺の安全面なども含めて「活かし方」を考えていけば、移設するほうが良い。
 - ・倶知安町文化財保護調査委員会での報告でもあったが、移転・移設しても、SLとセットでないと価値が見出せない。
 - ・鉄道遺産としてSLや転車台のみならず機関区などの歴史を含めて、現状のままでなく別の場所で伝えていくという方向性が大事かと思う。
 - ・方向性としては、「移転・移設」「撤去」の2つがあるということではどうか。
 - ・新幹線駅西側の「くとしさんパーク」の活用の仕方も大きな要素である。西側の公園と、文化を創出する東側の賑わいがリンクされるように。
 - ・JRへの確認なども進めながら、費用面だけの議論にならないようにしつつ、「移設」「撤去」のあり方を深めていきたい。
- ・併せて、整備エリア内にある桜の木についても、検討を進めたい。
- ・桜は倶知安青年会議所50周年事業で植えたものである。当時は、漠然と「新幹線が来た時に見えれば綺麗だよ」という感じてあった。
- ・町の考えを青年会議所と協議していけると良い。

4 第4回くとさんパークあり方検討部会

(1) 開催日時・場所

開催日時：2022年3月25日（金）17:00～18:00

開催場所：倶知安町役場 2階会議室

(2) 開催内容

- ・議 事
旧国鉄鉄道遺産の承継方法について… 資料
- 【概要】
 - ・本部会の成果として、北海道新幹線倶知安駅主変整備推進委員会に方向性を示していかなければならない。前回までの協議内容を整理したうえで、現物を残す「移設保存」と、現物を撤去する「記録保存」の2つに絞り込んでいる。
 - ・転車台を残すとなれば、この町では雪の問題を解決しないといけない。雪に埋もれてしまい、何もわからない期間が長いのではないか。
 - ・「歴史」を教育として活かせるかどうかに尽きと思う。歴史教育に繋がれば良い。現実的には撤去して記録を残していくことかな、と思う。
 - ・どのような残し方であっても、記録～記憶に残ること。町の責務として必要なことである。
 - ・移設して現物を残すか、撤去して記録を残すかと考えた時、半年しか現物を見れないのは大きい。加えて維持費がかかっていく。
 - ・この転車台について、将来興味を持った人が、すぐに調べられる、ちゃんとわかるような残し方が大事かと思う。
 - ・いろんな技術を使った「記録」で「記憶」に残すことも大事。歴史と記憶と情報を繋げていくことは、現物がなくてもできる取組みがある。
 - ・しっかりした調べ方が必要。転車台はあまりに情報が少ないが、知識がある人・知っている人（研究者など）は必ずいる。
 - ・記録として残していくことが大事かと思う。
 - ・ただ単に「モノ」を置くだけではなく、「活かし方」を考えつつ、「記録」を知識のある方がいる間に聴きだす作業を早くやらないといけない。
 - ・新しい新幹線駅に歴史を残す「記憶保存」も大事だと思う。
- ・親会となる北海道新幹線倶知安駅主変整備推進委員会への報告としては、
 - 「何らかの形で『残す』」
 - 「多数の意見としては、『現物保存に拘らず記録を残していく』」
 - 「記録を残す際には、しっかりと調査をして残すこと」
- ・知識のある人は高齢化してきたおり、早めに話を聴くことが必要。
- ・転車台を核として、鉄道の歴史をどう残していくか。しっかりと調査するのはもちろんのこと、町の人々が記憶を残していくことも大事。
- ・「精査して記録を残す」に加えて、現段階では移設保存の可能性も併記して良い。JRとの用地協議に盛り込んでみては。
- ・このエリアの「雪」は大きな課題…降雪の少ないエリアの残し方はできない。後から歴史を調べやすい「残し方」＝「活用のしかた」が大事。
- ・「記録保存」の手法をとることで、楽をするということにはならない。現物保存の場合もそうだが、相当な労力をかけて対応していかないと良いものではない。日本一の記録保存が見られるような仕組みを考えていかななくてはならない。
- ・転車台にはそれだけの付加価値がある。「町の財政状況が厳しいから」という理由で、記録保存に重きを置いているわけではないことは、明記しておいてほしい。「しっかりと残しましょう」ということ。